平成 23 年度　帰国隊員/青年支援プロジェクト　実施報告書　　提出日　　2012 年　3 月 27 日		
氏名：吉田　千穂	実施国：カンボジア	協力活動

活動名称	シェムリアップの農村地域における小学校図書プロジェクト ～日本人・カンボジア人によるハード・ソフト支援～
実施期間	2011 年 12 月 1 日　～　2012 年 3 月 25 日

（1）活動内容

本プロジェクトは、カンボジア人、日本人が協力しながらカンボジアの初等教育をハード面・ソフト面から支援することを目標としています。そのために下記の 2 点を実施しました。
1)図書室が設置されていないキリミアナン(Kiri Meanun)小学校に図書室を設置する
2)図書を管理し、絵本を効率的に活用した教育を実践するために教員を対象に研修を行う
本プロジェクトでは①キリミアナン小学校、②カンボジアのローカル NGO「EPS (Education for Population Support Foundation、以下 EPS)」、③カンボジアの教育省シェムリアップ局、④関西大学の学生グループである「J-CAJA」の 4 団体が協働して活動に取り組み、実施者は全体のコーディネートを行い、プロジェクトを企画・運営・実施しました。
図書室設置のために、2 種類の図書をキリミアナン小学校に導入しました。一つは、カンボジア国内で販売されているクメール語の図書です。カンボジアの自国文化についての内容理解も深められるような図書を検討し導入しました。もう一つは、日本の図書を日本語から英語に翻訳し、さらに英語からクメール語に翻訳した図書です。日本の図書は、一般の方や教育関係の各種団体から寄付を募って集め、集まった図書を翻訳ボランティアおよび J-CAJA の大学生が英語に翻訳し、カンボジアの大学生がクメール語に翻訳を行いました。
図書棚と図書を導入すると同時に、キリミアナン小学校の教員と一緒に図書室の運営方法についての協議を行いました。その後、カンボジアの教育省シェムリアップ局と連携し、教員 6 名に対して図書の管理方法、図書を使った教育実践について 3 日間の研修を実施しました。研修後には 4 団体が集まってキリミアナン小学校で贈呈セレモニーを行い、J-CAJA が図書室の飾りつけと視覚教材の提供、および児童に対してしおりを作成するワークショップを実施しました。

しおりと笑顔の生徒達

完成した図書室

1 冊の本を音読している生徒達

（2）活動を振り返ってうまくいった点、反省点
図書室設置のために、カンボジア国内で販売されているクメール語で書かれた図書をキリミアナン小学校に導入しました。しかし、予算の都合上、幅広い内容を扱った図書を導入することが困難であり、児童数に対して一定数を確保するため、文学(童話)、歴史・地理・伝記(伝記)に関する図書を 450 冊購入し導入ました。内容に偏りがあるため、辞書や社会、理科などの分野に関する図書を導入していくなど、今後継続的な支援を行いながら質に関しても拡充させていきたいと考えています。
（3）活動を通じて、国際貢献、国際交流ができたと思う点
教育関係の団体、また国際協力に興味がある一般市民の方から日本の図書を寄付してもらい、日本人ボランティアとカンボジア人ボランティアが翻訳を行いました。図書の寄付では 1 団体および 8 名から申し出があり、日本人翻訳ボランティアとして高校生 11 名、大学生 18 名、社会人 1 名、カンボジア人翻訳ボランティアとして大学生 14 名が関わりました。図書の寄付や翻訳ボランティアに参加することで日本人、カンボジア人が社会貢献活動に携わり、国際協力活動に対する理解や興味・関心を高めることが出来たと考えられます。
（4）今回の事業をふまえ今後の計画
今後は継続性を考えて 3 つの活動に取り組んでいく予定です。 一つ目は、図書室がキリミアナン小学校の教員らによって維持・管理が出来ているか、図書を有効に教育利用しているのかについてのフォローアップ調査を EPS と行います。キリミアナン小学校には毎月図書室の利用や管理状況について報告してもらい、また月に 1 度 EPS がフィールド調査を継続し、実施者とディスカッションを行います。導入から 6 か月後、実施者及び EPS がキリミアナン小学校で今回導入した図書や図書関連の資材が有効に活用されていると判断した場合、EPS が図書の内容を充実させるために 450 冊程度の図書を追加導入を行います。 二つ目は、J-CAJA の大学生が、カンボジアへのスタディツアーを年に 2 回定期的に行い、日本人学生が継続的に図書室の質的向上に関わり、またキリミアナン小学校の教員のニーズに沿った形で図書の活用や授業・教材支援に関するサポートを行っていきます。 三つ目に、本プロジェクトに携わった各団体のメンバーが継続的に連絡を取り合い、連携を深めながら交流や意見交換して活動が出来るように、オンライン上のコミュニティを形成します。 以上により、プロジェクトの継続的な活動を目指します。